

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成24年8月7日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyosyoCd=2170200485-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームハートフルは、周りを自然に囲まれた環境にあり、四季折々の草花を楽しむことができます。利用者様に楽しく生活を送って頂けるよう、併設特養と一緒に外出したり、お互いの行事に参加したり、また、入居前に利用していたデイサービスやショートの方々に会いに行かれたりと、施設内を自由に行き来し、なじみの関係を大切にしています。食事は、季節を感じる献立を取り入れ(ほう葉寿司、おはぎ、流し素麺など)職員と一緒に作り、天気の良い日は、中庭でのランチを楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは山に囲まれた高台にあり、近隣に民家は少ないが、豊かな自然環境にある。同じ敷地内に特別養護老人ホームやショートステイ、デイサービスが併設されており、それぞれの利用者の顔馴染みがあり、ホーム入居後も交流が続いている。共用する空間は広く、明るく、清潔である。ゆったりとした時間が流れている。利用者一人ひとりに職員の担当が決まっており、利用者の状態や希望を細かく把握し、職員間で共有しケアにあたっている。市の介護相談員を受け入れ、利用者の声を外部者に表す機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点は、サービスである。サービスに徹する。」ハートフルという名前の如く「努力する心いっぱい」「豊かな心いっぱい」「祈りの心いっぱい」それに感謝する心を持って生かされていることを充分心に止めて日々の業務に努める。この理念を玄関に掲示し常に意識し業務に入っている。	法人としての理念は一つであるという考えから、理念は法人と同じものになっている。ホームの職員出入りに理念を掲示し、職員が確認してから業務に入ることとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに訪問を依頼。利用者との交流・生活の活性化に向けて活動している。また、運営推進会議開催の際は民生委員に参加を呼びかけ、活動の理解に努める。今年度は活動通信を作成。地域へと発信していけるよう活動を継続中。	高台にあるため、近隣に民家が少ないことから、併設の法人施設と協議して地域住民や地域の小・中学校、高等学校の福祉活動を受け入れている。ホームに地域ボランティアの登録があり、利用者に楽しく過ごしてもらえるようボランティア活動を生かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れを実施。又、近隣地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、「家族と共に創り上げる」を部門目標に設定し、事前のアンケートや家族の要望を取り入れながら運営推進会議にて話し合いを実施している。	日程調整や準備、議事録作成への時間配分等の理由から、現在は年5回開催し、市職員、民生委員、法人関係者、ホームの苦情相談員、家族が参加している。より多くの家族や関係者に参加してもらえるように、内3回は行事と家族の会を同日に開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年5回の運営推進会議には、毎回の参加を頂いている。市担当者の参加により、運営に関わる様々な情報や、他の施設の運営状況などの意見を参考に会議に活かしている。	行政への窓口は、法人代表で行っている。運営推進会議には、祭日以外、土・日開催でも、早めの開催案内で市担当者の出席の協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は、日中、全室及び玄関に施錠はせず、利用者は過ごしている。また、GH会議において「身体拘束では？」と疑問に思うことに対して事例検討を行っている。	法人に「身体拘束0(ゼロ)委員会」があり、ホーム職員も委員に入っている。毎月第1週は、強化週間として職員間の意識付けも行っている。年3回の委員会会議において、その間に起きた事例の検討を行い、各職場職員への周知、ケアへの反映を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットや制度の説明などを玄関に掲示、相談を受ける時は、パンフレットなどを使用して説明している。施設内部・外部研修の実施・参加を推奨。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報の共有を目的に、内・外部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族、利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明し、理解・納得を得、御家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回定期的に介護相談員の訪問を受けている。利用者や談笑され、帰る時に気付いたことや感想などをノートに記入してもらっている。	家族の面会は比較的定期的であり、面会時に意見や希望を尋ねているが、面会の間隔が開いた場合は、電話で確認している。家族の会や運営推進会議でも意見が聞けるよう、和やかな環境づくりや信頼関係づくりに日ごろより取り組んでいる。	さらには、家族への行事参加や協力依頼の方法等の検討が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議に於いて職員の意見を取り入れ話し合いをもっている。また年2回個人面談を実施目標の反省とともに、今後のことや、悩みの相談に応じている。普段の業務時に於いても同様である。	定期的な会議や日常業務などで職員が意見を言いやすい職場環境を整えている。ホームに苦情相談員が配置され、新入職員の夜勤のサポートや職員の相談等に応じ、相談内容によっては上層部まであがるよう組織化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標設定し各職員の「やる気」をひきだす取組みを行っている。また、年に1回改善提案の募集があり、各個人や共同にて提案をし、良い案に対しては、報奨金制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員を育成する為に、「介護職員スキルアップ表」を利用している。また、担当職員がOJTの実施も行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話が出る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービスを利用されていた方は、サービス提供中にグループホームの職員が様子を伺ったり、他職員と情報共有の強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで期間がある時は、電話などで様子を伺い相談や情報交換に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや、季節の食べ物、畑で収穫したやさいを使った食事、週に一度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共に「当たり前の日常生活」を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には、利用者の日常の様子をお話する。また、利用者の、自分では言いにくいことなどを代弁させて頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していたショートステイやデイサービス利用者とのなじみの関係を継続していただいている。自由に行き来し開放的な雰囲気である。	入居前に併設のデイサービスやショートステイの利用者だった人が多く、入居後も携帯電話で顔見知りの人と連絡を取り合ったり、併設施設へ面会に出かけている。併設施設の職員にも連絡を入れておく等、利用者の楽しみと関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされている方も、時折職員が声をかけ、リビングへお連れし、他利用者と一緒に過ごせるようはたらきかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(契約)終了の際は、「お近くへみえたらまた、お立ち寄りください。」「困ったことがあったら、いつでも相談ください。」と気軽に来所できるように声をかけ配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまで、また入所後も御家族との面会や電話連絡を実施し、思いや希望を把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にも希望を尊重するよう、情報収集・共有に努めている。	利用者一人ひとりに職員の担当を決め、思いや意向の確認に努めている。管理者がケアマネジャーの資格を有しており、日常的に、利用者の様子や意見の情報収集、職員間の把握・共有がしやすくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特に御家族やご本人より生活歴や趣味嗜好等をじっくり伺い、記録。ケアカンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後2週間は、24時間の行動を把握するため、「生活経過記録」を残してしていく。また、日常の会話の中で、本人の要望や困りごとを傾聴し今後の生活支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で、御本人の思いや希望などを伺い、担当者、御家族、ケアマネ、医師とも相談しながら御本人の意見を反映出来るよう個別に検討し、介護計画の作成をしている。	把握した利用者の希望や意見を反映できるよう、担当職員や職員、家族、医師、ケアマネジャー等で相談し、介護計画を作成している。毎月1回、介護計画の進捗状況を確認し、計画が現状に即しているか検証している。	チームで作った介護計画書の内容を、どの職員が見てもわかりやすい表記にする取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングと評価を実施。GH会議にてカンファレンスを行い、職員全員で、見直し変更を話し合い、次のケアプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診等に対応している。特養・看護師も、24時間体制にて対応し、部署間の枠を超えた関係を築いている。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、フラダンス・マジックショーなどの講演会を開催。利用者を楽しんでいただけるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」の連携の下、利用者全員が体調管理や体調不良時など、24時間体制で対応可能、また、重症時には、地元総合HPへの紹介、連絡の協力もあり。	協力医をかかりつけ医としており、「かかりつけ医」の往診が月2回あり、体調管理が行われている。夜間における緊急時の対応支援体制としての併設する特別養護老人ホームの看護師やかかりつけ医師との協力関係も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する特養の看護師に情報や気づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者が出た場合、管理者または、副主任が1回/週は面会に伺い、家族より状態を聞き、また病院関係者への情報交換を行い、御家族・利用者の相談等に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間・365日の連絡体制を確立。又、併設する特養看護師にも24時間連絡をとれる対応をした。御家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と連携しながら終末期ケア実行の体勢を整えている。	これまでに5名の看取りを行った。重度化した場合、家族、医師、ホーム職員が同席のもと、今後の方向性を話し合う機会を持っている。終末期の1週間ほどは、家族に、たとえ夜間のみであっても、居室で付き合い最後の時間をともに過ごしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心配蘇生法訓練の定期開催を実施。また、運営推進会議を活用し、御家族にも定期的に習得できる機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの立地条件が山に囲まれていることから土砂災害を想定した避難訓練を運営推進会議にて実施する。避難指示が発令された時は、ご家族にも家での待機を了承いただく。	避難訓練は、併設の他の施設と合同で1回とホーム独自で1回行っている。事前に利用者説明してあるものの、訓練時の非常ベルが理解できる人とそうでない人がいるため、職員は混乱が少なくなるよう配慮し、ホーム外への誘導も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導などは、他の利用者に分からないように、なるべく利用者の近くに行き、さりげなく声かけをしている。	自尊心や羞恥心への配慮が出来ているか、日常の業務申し送り時に確認し合っている。入浴時のつい立ての使用、トイレでの声のかけ方など意識しケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに担当職員が決まっているため本人の思いを聞き取り、他職員にも共有し話し合いを持つことができる。その結果、利用者の希望を、なるべく尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでは、利用者が、思い思いのことをして過ごす。なじみの人に会いに行く人、調理をしたり、TVを観たり、新聞を読んだり、歌を唄ったり自由な時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、定期的に美容室を利用、カットや顔剃りをおこなう。入浴時には、洋服を自分にて選んだり、職員によるアドバイスもおこなう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常において、調理の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。また、天気の良い日は、庭に出て食事を摂って頂くなど、気分転換の工夫もしている。普段より食の進む方もみえる。	季節の食材を取り入れ、職員が1週間交代で献立や調理を担当している。特に行事等では、利用者、家族も参加し、職員とともに食事づくりを楽しめるように支援している。玄関前の広い芝生の庭に、ガーデンテーブルを常時設置し、外の景色を楽しみながら食事をする等、気分を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、夜間においても意識した水分補給行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩2回の口腔ケアを、職員見守りの元、実施している。義歯の方は、週1回(月曜日)義歯洗浄剤につけて清潔を心がけている。年1回歯科医による歯科往診をも実施している。(施設全体)		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意 便意のない方、訴えない方に対しても定時の誘導、落ち着かれない行動を察知して誘導を行うなど、気持ちの良い排泄支援を目指している。	職員が個別の排泄パターンを把握し、食事の前や入浴の前などにも配慮し、誘導している。パッド使用者には、排泄の処置後、温かいタオルで清拭を行っている。トイレは、車椅子で介助者とともに入っても、広い空間が確保されている。トイレでケアを受ける利用者が多く、各種の備品が準備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立や調理の工夫(繊維質を多く摂る)、水分摂取量の基準(1日1200ml)を目安に提供している。また、運動のため外への散歩や併設特養までの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、一応設定しているが、その日の気分や体調で変更や交替もある。また突発的なことに関してはこの限りではない。季節(夏場)などは、皮膚の状態に合わせて入浴の回数を増やしている。	その日の気分で予定の日に入浴しない人もあるが、週2・3回を目安に支援している。入浴しなかった場合もパジャマや下着を着替え、清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠のため、日中の活性化を支援、家事 やアクティビティへの参加を促す。他に居室内温度や湿度の設定、パジャマなど夏場には、毎日洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬して。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している(一部利用者)。職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には、定期的な外出支援をしている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫をしている(折り紙・塗り絵・体操など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設内で行われる定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。御家族との相談・協力を得ながら、外出支援を実践している。	日常は、毎週木曜日を外出の日とし、希望者の1・2名ずつで、喫茶店などへ職員とともに出かけている。3ヶ月に1回は行楽行事として、外出している。有償外出ボランティアを利用するため、費用について家族への相談、事前説明を行っている。	

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の利用者が、自分の小遣いを管理されており、施設内への販売や、外出の際の支払いなど自己にて行っている。また、買いたい物がある時は、職員に希望を伝え、その店に出向く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に帰りたい」など不安の訴えなどある時は、ご家族に電話をし声を聞いて安心してもらえるよう配慮している。また、家族からも了承を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体で感じ暮らすことができる。朝は、鳥の声で目が覚め、風がふいたり、雨が降ったりと利用者の五感に刺激与えてくれる。リビングからの眺めは、楽しみのひとつである。	リビングの窓はとても広く開放感がある。畳のコーナーもあり、広々としたリビングは、採光もよく開放的である。共用の空間やトイレは広く掃除も行き届き、清潔である。リビングの壁には、利用者による季節の作品が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、ソファや椅子が、点在しており、自分の好きな時に、気の合う仲間と自由に過ごして頂いている。また、一人になりたい時は、居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用していた愛用の身の回り品を持参していただいている。本人が落ち着ける空間作りを心掛けている。	どの居室も、大きな収納スペースが壁面に設置され、自宅からの愛用の品をベッド周囲に配置しても、なお、十分な空間がある居室となっている。衣替えは、家族に依頼しているが、できない場合はホームで行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからなくなった方のために居室ドアに表札を付けたり、トイレには「トイレ」と大きな文字で表記している。		